報　道　発　表　資　料
平成 15 年 10 月 28 日
気　　象　　庁

第 96 回火山噴火予知連絡会
全国の火山活動について

2003 年 5 月以降、噴火した火山は、桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島の 3 火山でした。

三宅島では、依然として山頂火口から二酸化硫黄を含む火山ガスが放出されています。別紙のとおり統一見解を発表しました。

阿蘇山では、熱的活動がやや活発な状態で推移しています。7 月 10 日には第一火口から土砂噴出が発生しました。

これらの火山では、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

全国の火山活動状況は以下のとおりです。

1.　北海道地方

1)　雌阿寒岳

・ポンマチネシリ 96-1 火口は，2000 年以降噴煙活動がやや弱い状態となり、火口温度もやや低下しましたが、現在も 400℃以上と高温状態が続いています。

・地震活動はやや活発な状態が続いており、一時的な地震の増減を繰り返しています。

・地殻変動観測ではやや伸びの傾向が見られています。

・以上のことから、現在も火山活動は引き続きやや活発な状態が続いていると考えられます。

2)　十勝岳

・微動は 2 月 8 日以降も 6 月までに 6 回発生しましたが、規模は次第に小さくなりました。顕著な地震増加は見られませんでした。

・62-2 火口は噴煙量や火口温度はやや低下する傾向が見られますが、噴煙活動は依然活発で火口温度も 300℃以上と高温状態が続いています。

・以上のことから、現在も火山活動は引き続きやや活発な状態が続いていると考えられます。なお、火山活動による地殻変動は観測されませんでした。

3)　樽前山

・1996 年から地震活動が活発化し、その後 1999 年以降には熱活動も高まり、その状態は現在も続いています。

・2003 年 10 月にはＡ火口、Ｂ噴気孔群およびＥ火口で噴煙活動がやや活発化しました。Ａ火口とＢ噴気孔群では火口温度が上昇したほか、Ｂ噴気孔群では 10 月 5 日以降夜間に高感度カメラで明るく見える現象が時々観測されています。このような現象は昨年 4 月にも認められており、硫黄燃焼が原因と考えられます。

・2003 年に山頂部でわずかな膨張傾向が見られました。

・以上のことから、樽前山では、Ａ火口およびＢ噴気孔群できわめて温度の高い状態が継続しており、引き続き注意が必要です。

4)　有珠山

・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

5) 北海道駒ケ岳

・地殻変動は、1996 年からの観測開始以降、継続して山体膨張の傾向を示しています。

・北海道駒ケ岳は、1996 年から 2000 年までの間に 6 回の小噴火が発生しており、噴火の数年前に小噴火を繰り返した 1929 年の大噴火や 1942 年の中噴火の前の状況と類似しています。

・なお、現在のところ、地震活動に特段の変化は見られていません。

2. 東北地方

1) 岩手山

・西岩手山で噴気活動が、東山腹下でやや深部低周波地震が続いているものの、浅部の地震活動や地殻変動は穏やかに経過しました。

2) 秋田駒ケ岳

・6 月に一時的に地震活動が活発化しましたが、その後は穏やかに経過しました。

3) 蔵王山

・6 月下旬に、蔵王山付近を震源とする地震が一時的に増加しましたが、その後、火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

4) 吾妻山

・地震活動が若干上向きですが、火山活動は穏やかに経過しました。

5) 安達太良山

・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。沼ノ平火口内の地熱・噴気活動は衰退傾向が続いています。

6) 磐梯山

・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。10 月に入ってから南西方の深さ 30km 付近における深部低周波地震が多くなっています。

3. 関東・中部地方

1) 那須岳

・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

2) 草津白根山

・地震活動、地殻変動には変化はなく、熱活動、化学組成に若干の変化がありました。

3) 浅間山

・地震活動は 2000 年 9 月から活発な状態が継続しています。

・噴煙活動は一時低調となりましたが、10 月に入ってやや活発になっています。

・二酸化硫黄の放出量は、4 月より減少しましたが、多い状態が継続しています。

・火口底温度は低下したものの、やや高い状態が継続しています。

・以上のことから、火山活動はやや活発な状態が続いており、今後も火口周辺に降灰をもたらす程度の、小規模な噴火が発生する可能性があります。

4) 御嶽山

・火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

5) 富士山

・火山活動に特別な変化はなく、静穏な状態が続いています。

・なお、9 月に東北東山腹で地面の陥没とごく弱い噴気が確認されました。その後陥没や噴気の状況には若干の変化は見られますが、噴気に含まれるガス成分の同位体分析等を含む調査ではマグマ性の成分は検出されておらず、噴気温度にも顕著な変化は認められていません。また、地震活動・地殻変動等のデータに変化も見られないことから、噴火活動に直接つながる現象ではないと思われます。

6) 伊豆東部火山群

・6 月に地殻変動を伴う小規模な地震活動があったものの、火山活動に特別な変化はなく、静穏な状態が続きました。

7) 伊豆大島

・地震活動は落ち着いた状態であり、地殻変動は長期的に見て、島全体が膨張する傾向が継続しています。

8) 三宅島

・別紙のとおり統一見解を発表しました。

9) 八丈島

・地震活動は静穏に経過しました。

・火山活動に関連する可能性があると思われる若干の地殻変動が観測されており、今後の推移を見守る必要があります。

10) 硫黄島

・火山活動に関連すると思われる地震活動、地殻変動等が継続しています。

4. 九州地方

1) 九重山

・1995 年 10 月の噴火で生成した火孔群の噴煙活動は弱まり、火山活動は静穏に経過しました。

2) 阿蘇山

・7 月 10 日に土砂噴出が発生しました。火山灰が降った領域は、中岳第一火口から東北東へ約 14km、幅は 1～2km 程度でした。火山灰には、新鮮なガラス物質が含まれていました。

・火口底の湯だまりは、湯量の減少傾向が続き、10 月 20 日には見かけ上の面積は約 6 割に減少しました。また、湯だまりの表面温度は、9 月下旬に 80℃を超えるなど、熱的活動もやや活発化しています。

・B 型地震は、6 月下旬から次第に増加し、9 月からは多い状態が続いています。また、孤立型微動も 9 月から急激に増加し、多い状態が続いています。8 月中旬には火山性連続微動も観測しました。

・二酸化硫黄の放出量は、一日あたり約 2,000 トンと、やや多い状態となっています。

・以上のことから、火山活動はやや活発化しており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

3) 雲仙岳

・火山活動に特別の変化はなく、静穏に経過しました。

4) 霧島山

・新燃岳、御鉢付近を震源とする地震は少なく、御鉢付近を震源とする微動も 1 回発生しただけで低調でした。

・表面現象に変化はなく、地殻変動にも異常な変化は見られませんでした。

・新燃岳の南側で消磁傾向が続いており、地下の温度上昇か熱変質が続いていることを示しています。

5) 桜島

・9 月は山頂からの噴火を繰り返し噴火活動が一時的にやや活発化しましたが、桜島としては 2001 年以降の比較的静穏な状態が続きました。

・火山性地震、火山性微動は総じて少ない状態で経過しましたが、7 月から 9 月にかけてA型地震がやや増加しました。

6) 薩摩硫黄島

・降灰や有色噴煙が観測されるなど、火山活動は一時的にやや活発となりました。

・7～8 月は連続した火山性微動を観測しました。

・GPS 連続観測では、火山活動に起因する変化は認められませんでした。

7) 口永良部島

・火山性地震は月に 100 回程度と多い状態が続き、振幅の小さな火山性微動や地熱異常を観測するなど、火山活動

はやや活発な状態を維持しています。

8) 諏訪之瀬島

・山頂からの噴火を繰り返しました。

・6月10日に空振を伴った連続的噴火が発生、7月4日～5日には爆発的噴火が20回発生するなど、一時的にやや活発となりましたが、その他は、比較的静穏な状態が続きました。

5. 海底火山

・特異事象や変色海域が確認された海底火山はありませんでした。